



〒663 西宮市池開町6-46
武庫川女子大学言語文化研究所
Tel 0798(45)3536 (直通)

けいごのこ

「この宛先まで、ご応募してください」。

最近、テレビなどで、このような言い方をしているのを聞くことがあります。

これを“ちょっとおかしいな”と感じる人は、どれくらいいるでしょう？

それとも、間違いに気がつきませんか？

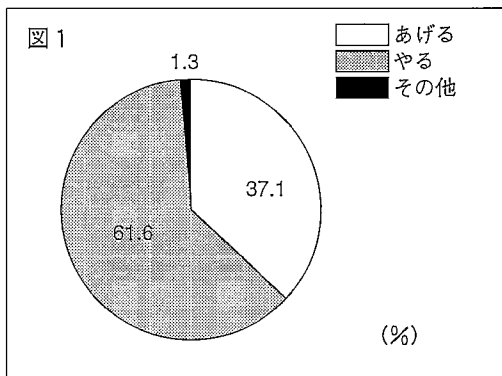
「敬語」というと、難しくて堅苦しいイメージがありますが、今回は次の三つの点を中心に敬語を考えてみることにしました。

- ・敬語の現代的な傾向について
- ・昔と比べて変化してきている敬語について
- ・最近気になる敬語について

武庫川女子大学の学生を調査対象者として、アンケート調査を実施しました。調査時期は1997年1月、330人から回答を得ることができました。

以下に調査結果の一部を報告します。

◆「やる」「あげる」〈ネコにえさを与えるとき〉



「やる」は、話者と同等以下、あるいは動植物に対して、何かを与える場合に使われる。他方、「あげる」は謙譲語であり、相手への敬意を表すことばとして使われきた。したがって、「ネコにえさを〜」となると「やる」になるのが原則である。しかし、最近は、「あげる」を「やる」の丁寧な言い方として使用する傾向が強い。「あげる」の丁寧語化である。そしてそれは、「やる」がぞんざい

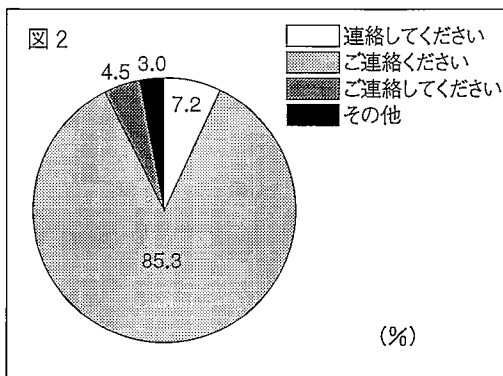
で、あらっばいことばとして認識されていることの裏返しでもある。「あげる」が使われるのは、話者より目上か目下かという概念ではなく、丁寧に、品よく話そうとい

う意識の強さに原因があると考えられる。調査の結果によると、「やる」が6割で「あげる」は残り約4割であった（図1）。調査前の予想よりも「やる」がはるかに多い。この結果をどう解釈するか。

第1は、女子大生たちが、「やる」に対して、丁寧さよりも本来の用法の意識をもっていると考えられるものである（ただし、この可能性は非常に少ないだろう）。第2は、本来の用法を意識的に使用している（あるいはアンケートに意識的に答えている）と考えるものである。つまり、学習によって敬語の知識を十分にもっている場合である。第3は、目下に限らず「やる」を使う場合である。数年来、一部女子中学生が男子のようなことばを使うという話を聞いている。その傾向が進んでいるとすれば、目下に限らず、同等の者に対して「やる」を使う可能性が考えられる。

第2か第3の可能性が高い。継続して調査したい。

◆「ご連絡ください」「ご連絡してください」〈連絡をしてほしいとき〉

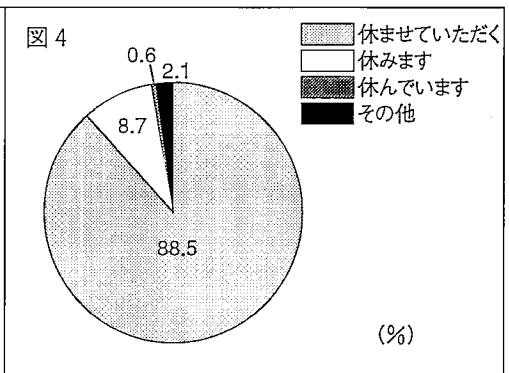
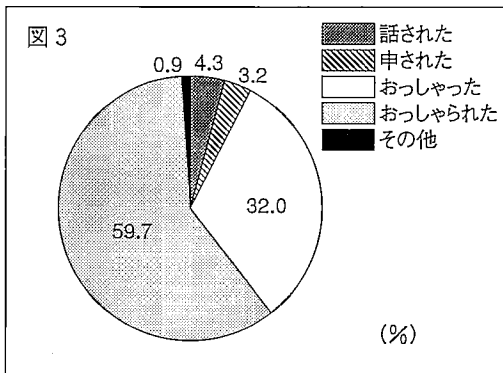


「ご～する」は、話者の行為に使われる謙譲表現である。「連絡する」のが話者の行為である場合に、「ご連絡（いた）します」などと用いる。それが相手の行為であるのに「ご～する」と表現すると誤用である。しかし、最近、誤用である「ご連絡してください」ふうの表現が多く見受けられる。

調査では、「就職などで企業への手紙を書くとき、どのことばづかいをしますか」という設定をした。その回答結果によると、「ご連絡ください」を選択した人が8割以上であった（図2）。女子大生たちのほとんどは、「ご連絡する」について正しい知識をもっていると言える。ただし、場面設定による影響があったかもしれない。

（この段落は図2の解説として既に述べた内容を補完する形で再入力）

◆「おっしゃられる」〈相手の発言〉、「休ませていただきます」〈休みの張り紙〉

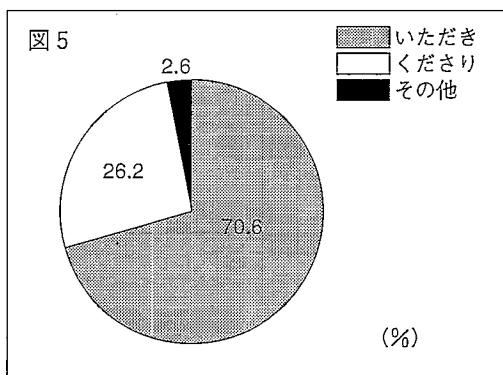


次に、「相手の発言について言うとき」に、どう言うかという質問の回答を見ると、「おっしゃられたように」を選んだ人が約6割もいる(図3)。また、「飲食店のドアに書くとしたらどの書き方がいいか」という質問に対する回答では、「休ませていただきます」を選んだ人が約9割もいた(図4)。

「おっしゃられる」、「～させていただきます」は、「二重敬語」あるいは「過剰敬語」といわれるものである。「おっしゃられる」は「おっしゃる」だけで尊敬語であり、そこに尊敬の助動詞「れる」がさらについている。他方、「させていただきます」もへりくだり過ぎだというものである。アンケートの「休ませていただきます」も、飲食店が休むのは、受け手(客一般)の承認を得なければいけないことでもないし、また、受け手の恩恵によって成立することでもないの、へりくだり過ぎた表現だといっているのである。以上のことから、これらの「おっしゃられる」「～させていただきます」は、望ましくないとする意見もある。

しかし、図3、4からもわかるように、これらの過剰な敬語が女子大生からかなり高い支持を得ている。「おっしゃる」を選んだ人は、三割強であり、「話された」は4.3%であった。また、完全な誤用である「申された」も3.2%あった。

◆「～していただき」「～してくださり」〈お礼状で〉



お礼状で、「お送りいただきありがとうございました」と「お送りくださりありがとうございました」のどちらを使うかという質問。「～していただき」は、「～してもらう」の謙讓表現で、「わたしが、あなたによってしてもらおう」という、話者中心の表現である。他方、「～してくださり」は、「～してくれる」の尊敬表現で、「あなたが、わたしに対してしてくれる」という、相手中心の表現である。

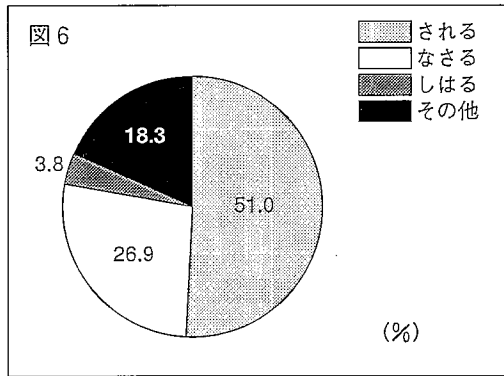
そこから、相手を中心とした「～してくださり」の方が、より敬意が高いと考える立場もある。

調査結果を見ると、自分中心の「していただき」が7割以上を占めている(図5)。尊敬表現よりも謙讓表現のほうが好まれることを意味するのであろうか。

◆「される」「なされる」——レル形による敬語の簡略化

「食べる」の尊敬表現としては、「召し上がる」も「食べられる」も可能である。つまり、特別な尊敬語と尊敬の助動詞レルをつける形とが可能である。「言う」や「する」についても、同様に、それぞれ「おっしゃる・言われる」「なされる・される」の二通りがある。

そして、近年は、特別な語形よりもレル形が好まれる傾向があるとされている。



そこで、「なされる」と「される」についてどちらを好むかという質問をした。その結果が図6である。「知らない人が困っているときにどのように声をかけるか」という質問に対して、「どうされたのですか」と答えた人は半数以上であり、「どうなさったのですか」とした人は全体の約4分の1である。この一つの結果から、全体を推し量ることはもちろんできないが、「レルさえつけければ尊敬になる」

便利さによる、敬語形式の簡略化の表れとも考えられる。

◆ 関西の敬語「～はる」

大阪・京都を中心とした「はる」敬語を、女子大生たちはどのように使っているだろうか。下のような5つの場面を設定して、「あなたの友達は、どのことばづかいをしますか」という質問をした。「はる」を使用する場合の回答率は次の通りである。

直接先生に対して言う場合	「会議に行き(か)はりますか」	9.8%
直接先輩に対して言う場合	「合宿に行き(か)はりますか」	19.9%
あなたに対して先生のことを言う場合	「今日は来て(た)はるわ」	29.3%
あなたに対して先輩のことを言う場合	「今日は来て(た)はるわ」	37.4%
あなたのお母さんのことを言う場合	「懇談会に行き(か)はるの」	46.9%

〈相手に直接話す場合〉

先生に対しては9.8%と1割に満たない。先輩に対しては約20.0%である。自分より目上の人と直接話す場合、「はる」はあまり使わないようだ。一番多かったのは、先生には「会議に行かれますか (74.6%)」、先輩には「合宿に行かれますか (67.6%)」であり、やはりレル形が好まれていることが分かる。

〈第三者について言う場合〉

その場にはいない人に対して敬語を使うかどうかという視点からの質問。

「あなたのお母さんについて」が一番多く約半数。先輩に対しては37.4%で、先生(29.3%)より10%近く多い。このことから、女子大生たちは「はる」敬語を、相手と第三者との関係が心理的に身近である場合に使用していると推察できる。

ちなみに、先生と先輩に関して一番多かった回答は「今日は来てるわ」という敬語を用いない言い方で、先生に対しては61.6%、先輩に対しては55.7%であった。先生に対する尊敬度がよく表れていると考えていいのだろうか。

あとがき

1997. Oct.

アンケートにご協力下さった学生の皆さんにお礼申し上げます。

[担当] 佐竹秀雄・上月千秋